

新規開業を考えている先生へ

日本臨床内科医会 木内章裕

新規開業にはいろいろな不安や困難がつきものです。

決して私のところが成功したケースというわけではありませんが、12年前に私が開業するにあたってこだわった点や、こうしておけばよかった点などを書きたいと思います。

私が東京の下町で開業したのは46歳の時で、どちらかといえば遅い開業だったと思います。大学病院に勤務していた私は、実家が医者ではなく、開業のノウハウも全くわからないため、物件探しや役所や保健所の手続きの仕方、開業資金の調達方法など、諸々のことは、薬の卸しをしている会社の開業支援部の方にアドバイスしていただきました。うちは医療モールでの開業にこだわっていたので物件選びに2年近くかかってしまいましたが、今ではネットなどにも情報が載っているようなのもっと早く見つかるのではないのでしょうか。

さて、クリニックの設計にあたり、こだわったのは患者さんと職員の動線です。特にトイレの位置には気を配りました。患者さんが検尿コップを持って待合室を横切るのはあまりいい気持ちではないので、診察室からトイレに行く時は、他の患者さんの目にあまり触れないように配置しました。

診察室に窓を付けるか、窓側は職員が通る廊下にして窓がない部屋にするか悩みましたが、自分が長時間滞在することになる診察室に窓がないと閉塞感で息が詰まるのではと考え、窓があるタイプにしました。

これは物件の構造上したかないこともあるのですが、においのひどい時など窓を開けて換気ができるので、やはり診察室には窓があったほうが便利だと実感しています。

診察室を1つにするか、将来を考え2つにするかも迷いましたが、とりあえず1人で開業するので1つにして、その分診察室を広めにとりました。

コロナウイルス感染が取りざたされている昨今、診察室を2つにして、1つを発熱者用に使い分けるのもよかったかなと今となっては思っています。

受付はホテルの受付のイメージにしたくて、カウンター式の横長でオープンな形にしました。

これだと受付から待合室の患者さんがはっきり見えるので、体調の悪い人など見つけやすい利点はあるのですが、逆に言うと患者さんから受付の職員が丸見えなので、職員は少しストレスを感じるようです。

やはりコロナウイルス感染の昨今、アクリル板のパーテーションを取り付けるなどの対策をするようになり、待合室を受付との間に少しですが、文字通りしきりが出来た感じはしません。

細かい話ですが、ドアの開く方向も重要です。内側に開くのか、外側に開くのか、右開きか左開きか、引き戸にするのか、自動に閉まるタイプにするのかなど、これらは使い勝手に結構影響します。

私は開業するにあたって、知り合いや、内装業者が以前手掛けたクリニックなど6-7件のクリニックに見学に行き、いろいろと参考にしました。また、最初に話を聞いた内装業者の設計図が気に入らず、2件目も納期や金額がこちらの希望と会わず、結局3件目の業者に頼むことにしました。

皆さんも開業にあたっては妥協することなく自分の希望通りのクリニックを作ってください。成功をお祈りしています。